



秋田銀行

平成23年9月期

会社説明会

平成23年12月5日



平成23年度中間決算の概要

● 平成23年9月期 損益(単体)	3
● コア業務粗利益の状況	4
● 貸出金の状況	5
● 与信費用の状況	6
● 不良債権の状況	7
● 預金・預り資産の状況	8
● 県内預貸金シェアの状況	9
● 有価証券の状況	10
● 自己資本(単体)の状況	11

経営戦略

● 収益計画・単体(24年3月期)	13
● 中期経営計画の進捗状況	14
● 農業・アグリ分野への取組強化	15~16
● 海外ビジネスへの取組強化	17
● 店舗戦略の強化	18
● 経営資源の再配分~営業力の強化	19~20
● 株主還元	21

平成23年度中間決算の概要

● コア業務純益42億円、経常利益50億円、中間純利益27億円と増益

（億円）

	22年9月 実績	23年9月 実績	前年比
1 コア業務粗利益	177	176	1
2 業務粗利益	183	173	10
3 資金利益	161	159	2
4 役務取引等利益	15	15	0
5 その他業務利益	6	1	7
6 うち国債等債券損益...	6	3	9
7 経費	142	132	10
8 人件費	72	68	4
9 物件費	61	56	5
10 コア業務純益	34	42	8
11 一般貸倒引当金繰入額...	7	-	7
12 業務純益	48	39	9
13 臨時損益	11	11	22
14 不良債権処理額...	21	5	26
15 一般貸倒引当金戻入益...	-	18	18
16 株式等関係損益...	15	8	23
17 経常利益	37	50	13
18 特別損益	3	2	1
19 中間純利益	17	27	10
20 有価証券関係損益（ + ）	21	11	32
21 与信費用（ + - ）	13	23	36

資金利益 ▲2億円

- 貸出金・有価証券利回り低下
- 4ページ参照

経費 ▲10億円

- システム共同化完了にともなう消耗品費、時間外勤務料などの減少
- 上半期3億円のコストを削減

有価証券関係損益 ▲32億円

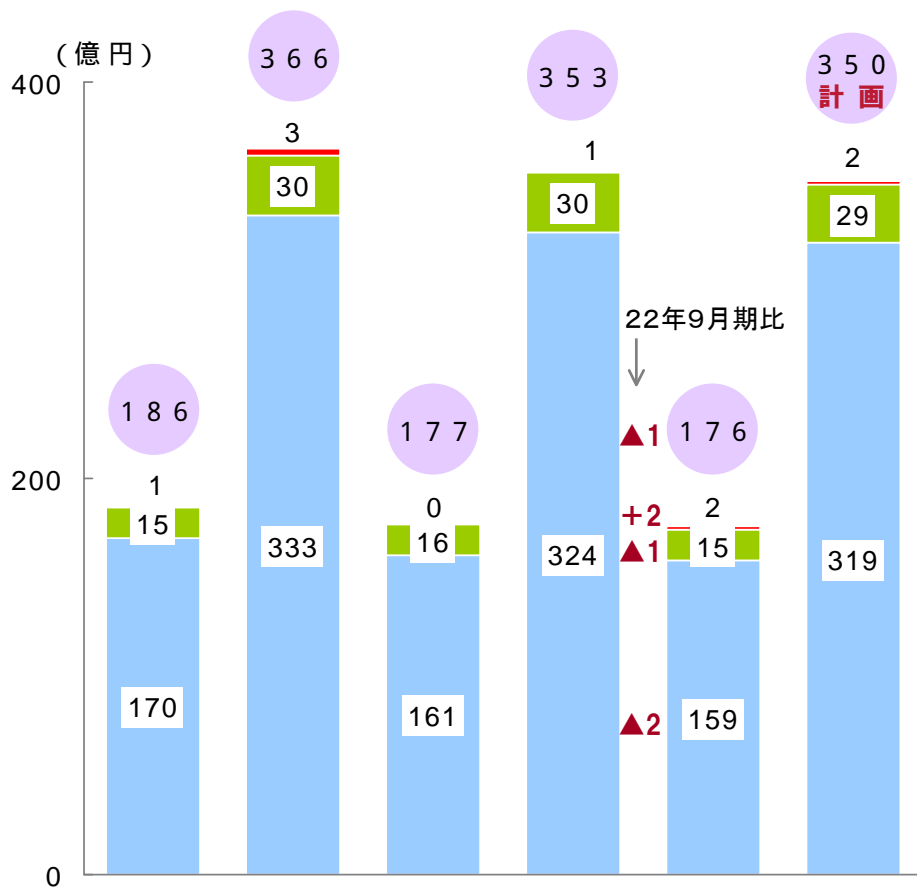
- 売却益▲20億円
- ユーロの暴落や株価下落による減損+13億円

与信費用 ▲36億円

- 一般貸倒引当金～正常先の貸倒実績率の低下による戻入発生
- 不良債権処理額～大口先の弁済等による個別貸倒引当金の取崩発生

- コア業務粗利益は資金利益の減少により▲1億円
- 貸出金・有価証券の平残増加も利回り低下により資金利益は減少

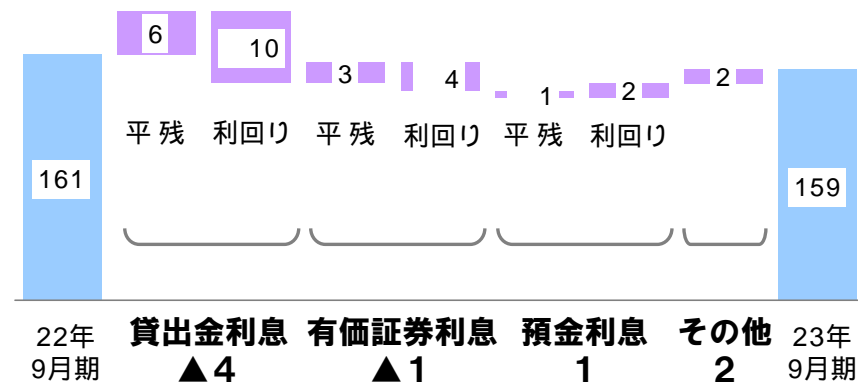
■ コア業務粗利益の推移



21年9月期 22年3月期 22年9月期 23年3月期 23年9月期 24年3月期

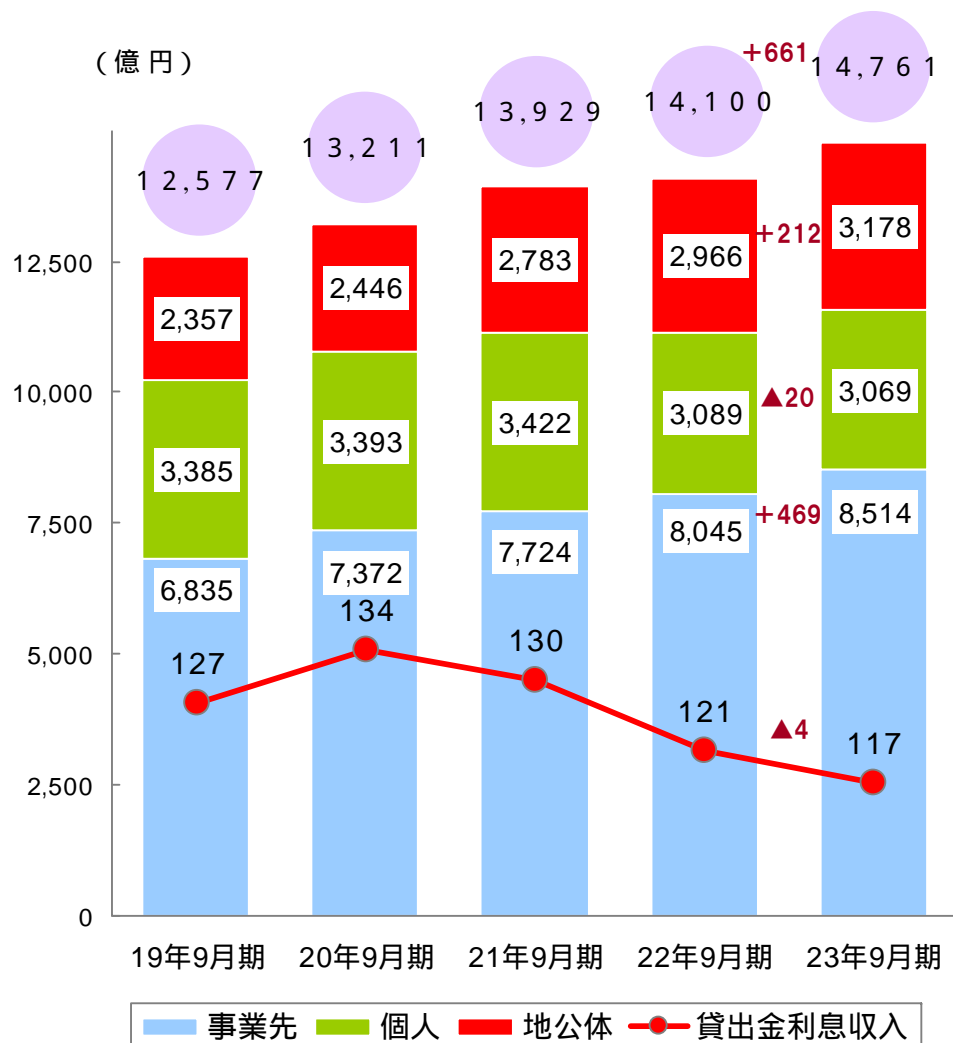
■ 資金利益 ■ 役務取引等利益 ■ その他

■ 資金利益 増減要因



- 総貸出末残 22年9月末比+661億円（+4.6%）、過去最高残高を更新
- 震災関連（事業先）貸出が残高増加に寄与、住宅ローンは底入れの動き
- 貸出金利回り低下から貸出金利息は▲4億円

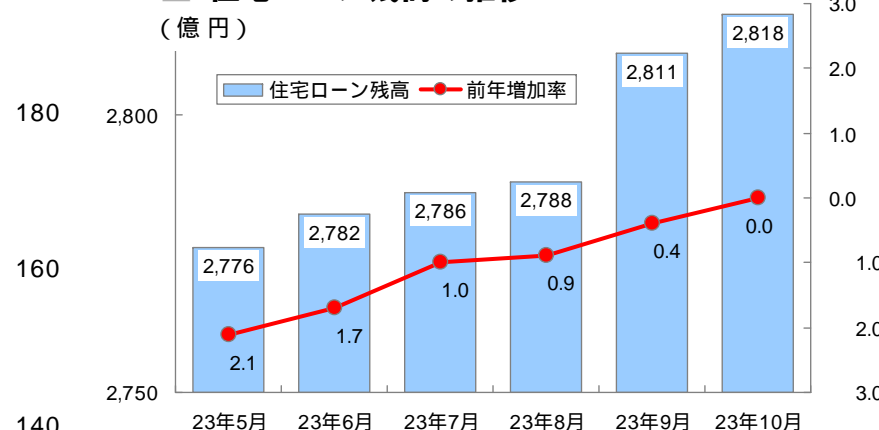
貸出金残高（末残）・利息収入の推移



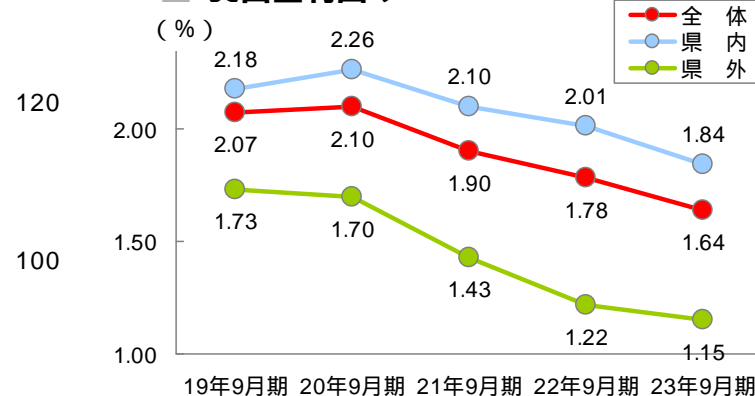
震災関連貸出 実行額 (23年9月累計)

	県内	県外	全体
1 保証協会	283	15	298
2 プロパー	6	8	14
3 合計	289	23	312

住宅ローン残高の推移

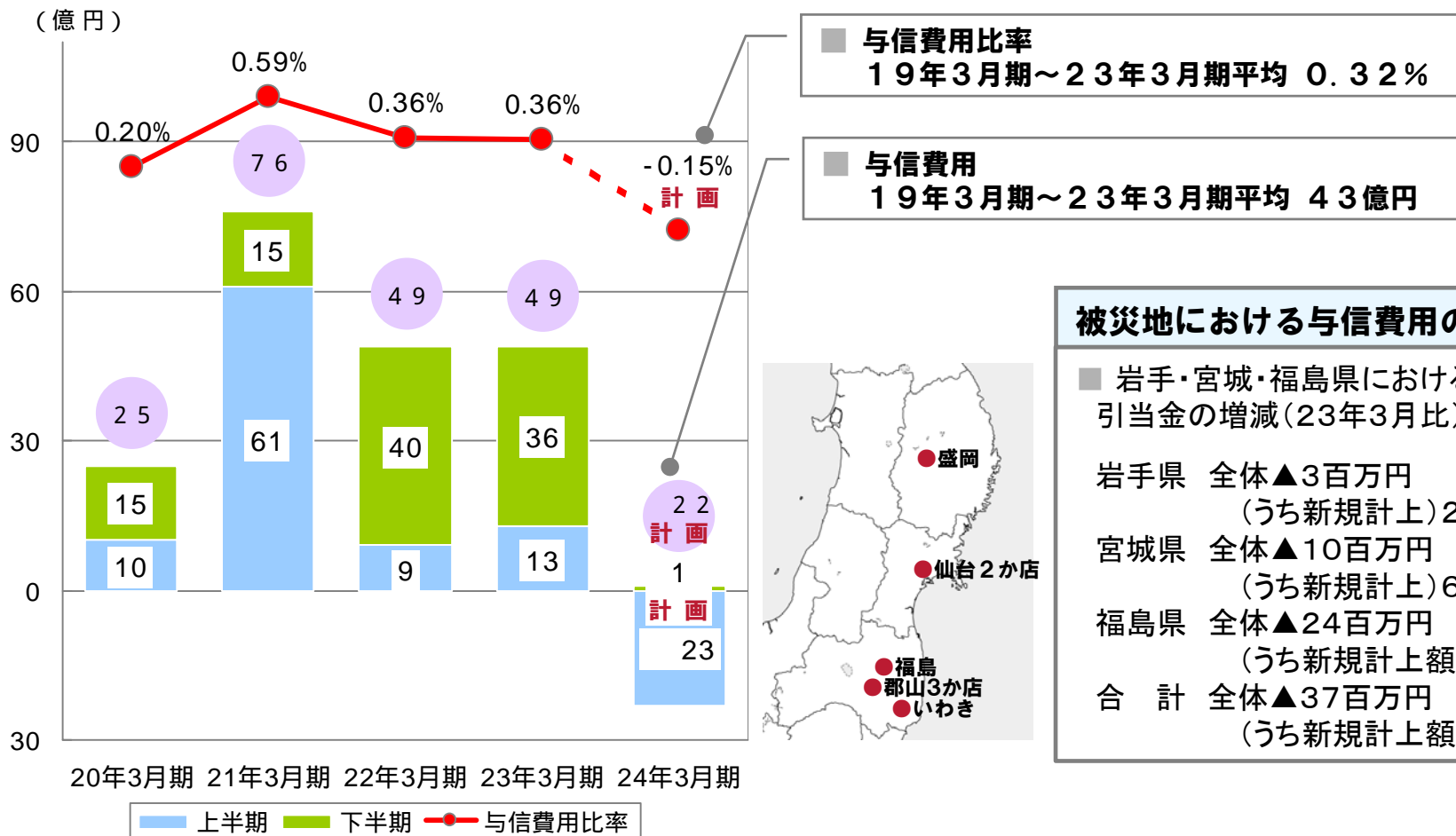


貸出金利回り



- 震災の影響が見込まれる取引先については23年3月期に追加与信費用を計上
- その他の取引先の業態は全体的に安定推移、与信費用は大幅改善

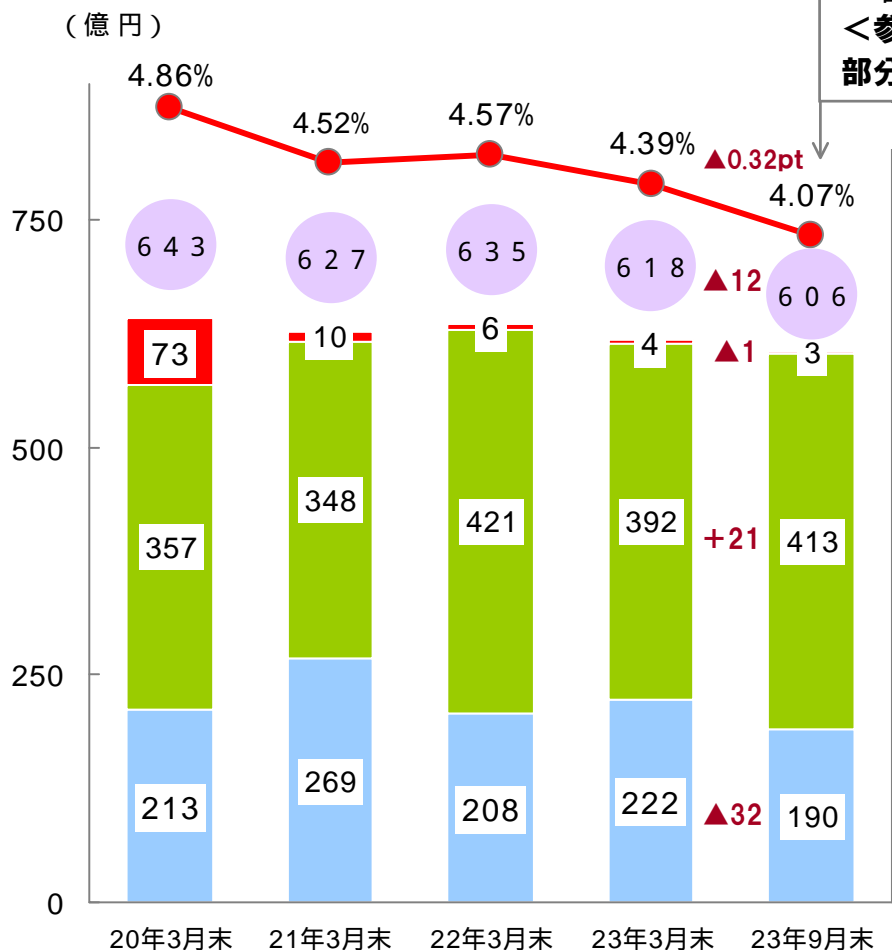
与信費用の推移



■ 与信費用 = 一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額 - 一般貸倒引当金戻入益
 ■ 与信費用比率 = 与信費用 ÷ 貸出金平残

- 不良債権残高は弁済等により23年3月末比で12億円減少
- 不良債権比率は23年3月末比で▲0.32pt

金融再生法開示債権の推移



不良債権比率
部分直接償却 未実施
<参考>
部分直接償却実施後 3.17%

増減内訳 (23年3月期~23年9月期)

増加		減少()	
ランクダウン	52億円	弁済等	34億円
→ 要管理債権へ	0億円	ランクアップ	18億円
→ 危険債権へ	46億円	要管理債権から →	2億円
→ 破産更生債権等へ	6億円	危険債権から →	14億円
与信額増加等	13億円	破産更生債権等から →	2億円
		バルクセール・直接償却等	25億円
増加合計	65億円	減少合計	77億円

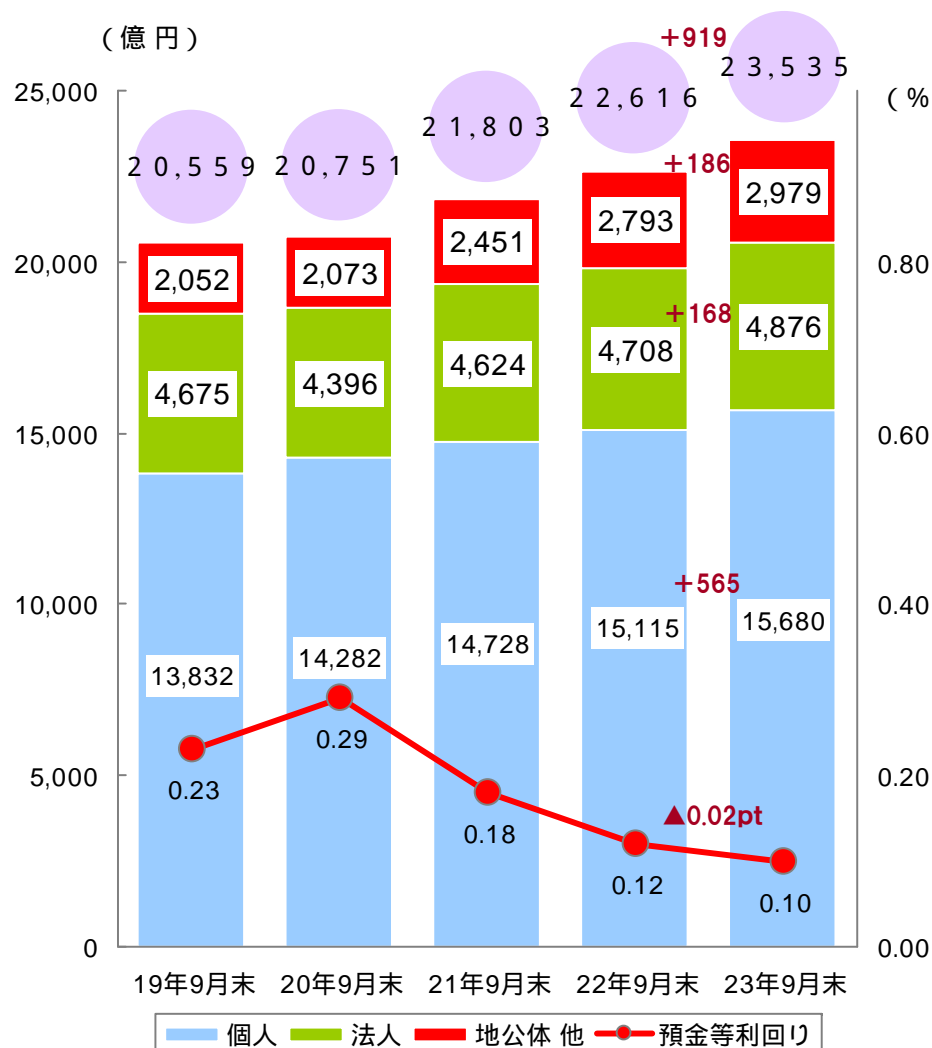
保全状況

	債権額 A	保全額 B	未保全額 (A - B)	保全率 (B ÷ A)
1 破産更生債権等	190億円	190億円	0億円	100.0%
2 危険債権	413億円	329億円	84億円	79.7%
3 要管理債権	3億円	1億円	2億円	39.7%
4 合計	606億円	520億円	86億円	85.9%

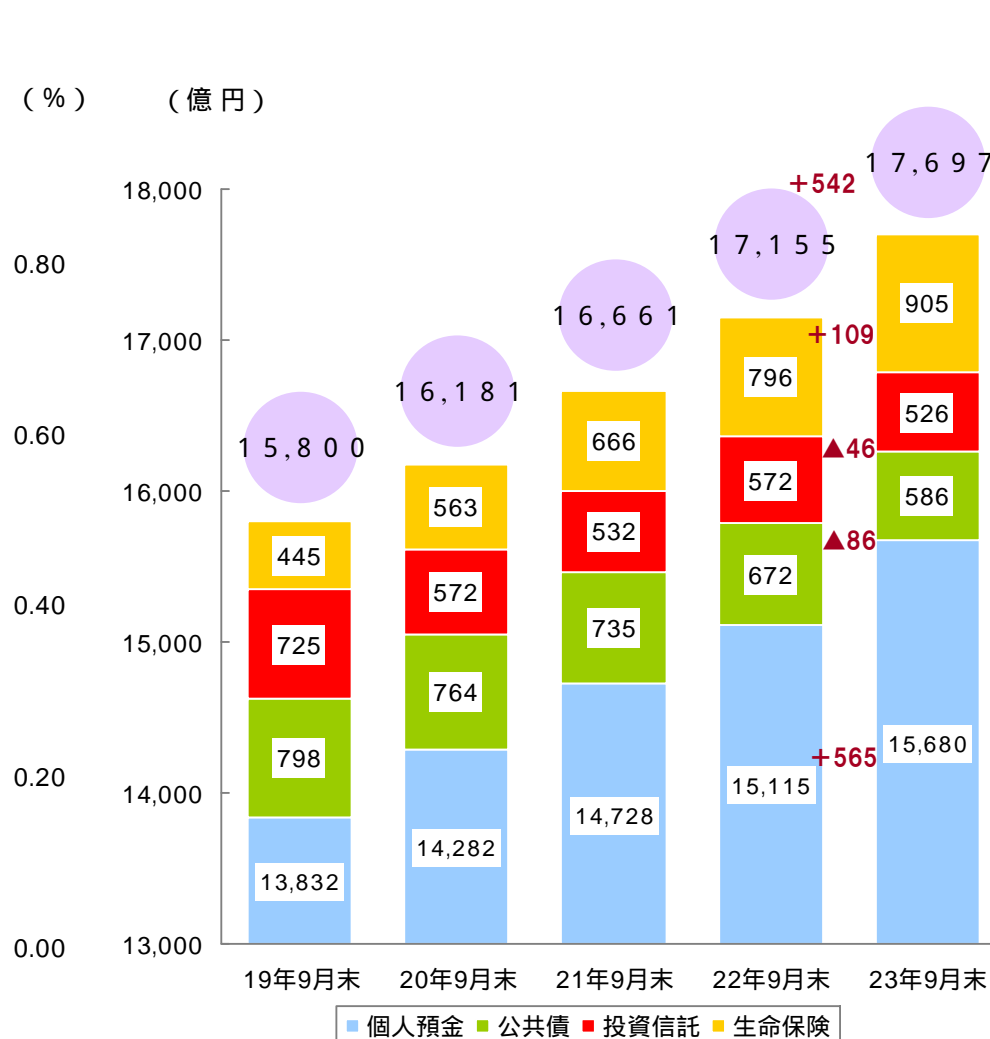
破産更生債権 危険債権 要管理債権 不良債権比率

- 総預金末残は22年9月末比+919億円（4.0%）
- 預り資産は公共債・投信が減少も生保は順調に増加

■ 預金残高（末残）の推移



■ 預り資産残高（末残）の推移



- 県央、県北、県南の全地域で預金・貸出金トップシェアを維持
- 相対的にシェアの低い県南部にシェアアップの余地

秋田県内の預貸金のシェア（23年9月末） [算出対象：銀行、信用金庫、信用組合]

預金シェア

	当行	県内他行	信金・信組	県外他行
23年9月期	55.6%	30.4%	9.4%	4.6%
22年9月期	55.7%	30.2%	9.3%	4.8%

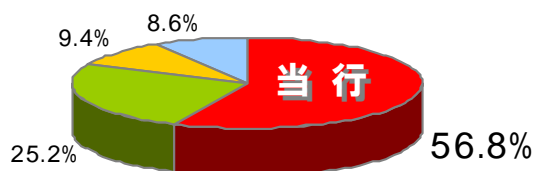
貸出金シェア

	当行	県内他行	信金・信組	県外他行
23年9月期	53.2%	32.8%	8.6%	5.4%
22年9月期	52.4%	33.0%	8.9%	5.7%

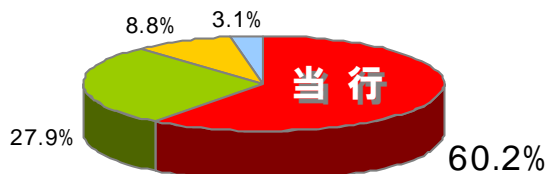
地域別の預貸金のシェア（23年9月末） [算出対象：銀行、信用金庫、信用組合]

預金シェア

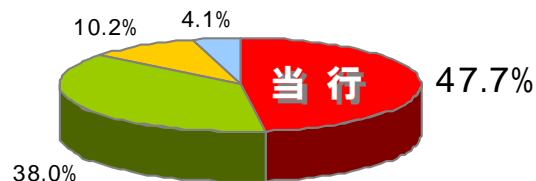
● 県北



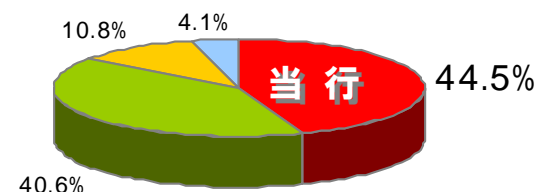
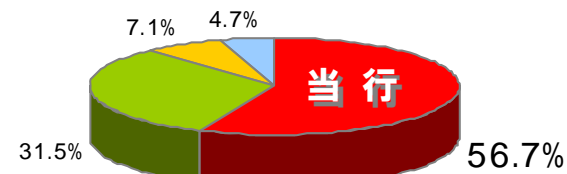
● 県中央



● 県南



貸出金シェア

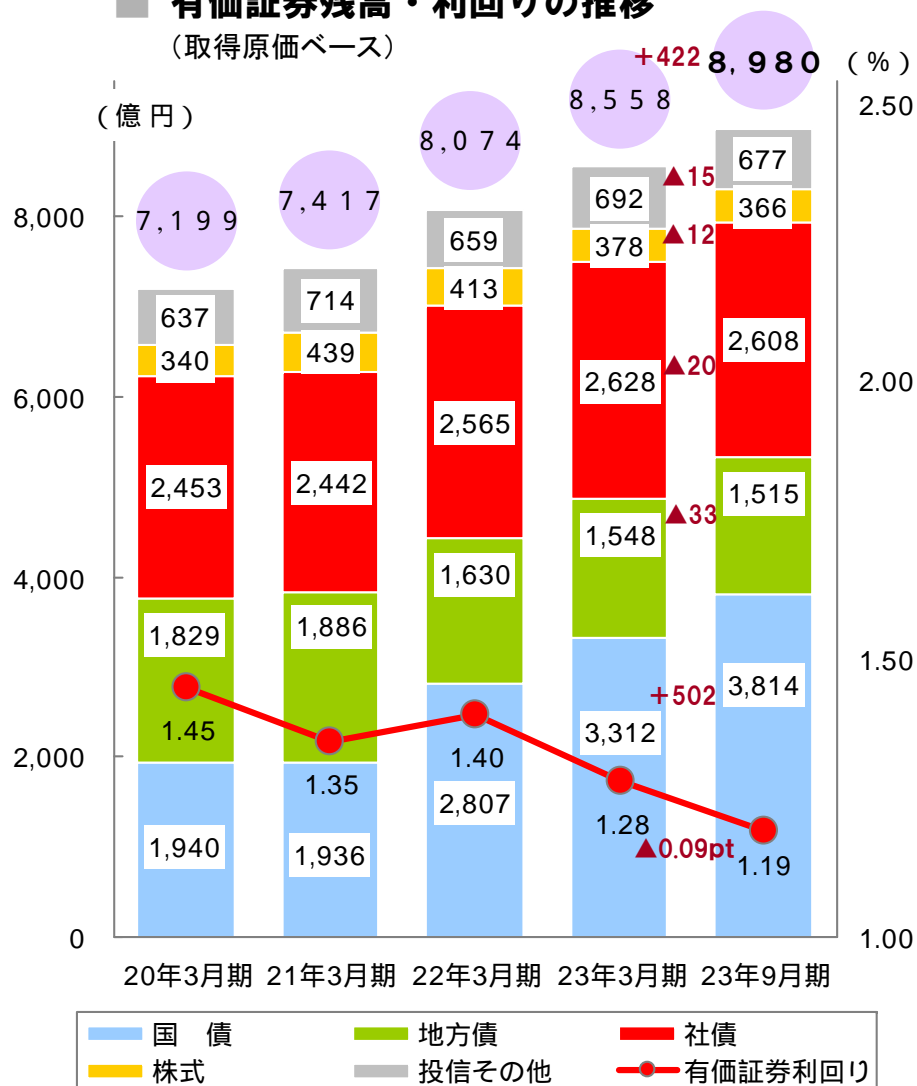


■ 当行 ■ 県内他行 ■ 信金信組 ■ 県外他行

- 債券のデュレーションは横ばい（23年3月末 3.59年 → 23年9月末 3.57年）
- 有価証券評価損益は167億円、23年3月期対比▲6億円

有価証券残高・利回りの推移

（取得原価ベース）



有価証券部門損益（総合損益）

（億円）

	22年9月期	23年9月期	増減
1 利息配当金	55	54	1
2 売却・償還益	28	8	20
3 売却・償還損()	0	0	0
4 償却()	6	19	13
5 計	77	43	34

評価損益

（億円）

	23年3月期	23年9月期	評価益	評価損()	増減
6 国内債	148	178	179	1	30
7 国債	65	79	79	0	14
8 うち変動利付	(40)	(29)	(29)	0	11
9 地方債	41	49	49	0	8
10 社債	42	49	50	1	7
11 外債	0	3	4	1	3
12 株式	41	13	51	38	28
13 投資信託ほか	15	27	6	33	12
14 合計	173	167	241	74	6

○ 変動利付国債については「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」に基づく合理的に算定された価格で評価（理論値採用による評価差額+23億円）

アウトライヤー比率（23年9月末）

金利リスク量	アウトライヤー比率
78億円	6.64%

○ 99パーセントタイル基準 20年9月末からコア預金に 内部モデル導入

● 自己資本比率11.73%、Tier 比率11.17%、コアTier 比率10.77%と十分な水準を維持

■ 自己資本・Tier・コアTier 比率の推移

■ 自己資本は普通株のみで構成
優先出資証券・優先株による調達なし

(億円、pt)

	21年3月末	22年3月末	23年3月末	23年9月末	23年3月末比
1 自己資本額...	1,142	1,171	1,182	1,177	5
2 Tier ...	1,071	1,095	1,108	1,122	14
3 Tier	71	76	74	55	19
4 一般貸倒引当金	45	51	49	30	19
5 再評価差額金45%	26	25	25	25	0
6 負債性資本調達手段等	-	-	-	-	-
7 リスクアセット...	10,144	9,871	10,074	10,038	36
8 信用リスク・アセット	9,493	9,215	9,424	9,395	29
9 オペレーショナル・リスク	651	656	650	643	7
10 繰延税金資産純額	125	21	54	40	14
11 自己資本比率(÷)	11.26%	11.86%	11.73%	11.73%	0.00
12 Tier 比率(÷)	10.55%	11.08%	11.00%	11.17%	0.17
13 コアTier 比率	9.32%	10.87%	10.45%	10.77%	0.32

■ 国内基準
・信用リスク・アセットの算出・・・標準的手法
・オペレーショナル・リスク相当額の算出・・・粗利益配分手法

■ コアTier I 比率=(Tier I - 繰延税金資産純額)÷リスク・アセット

経営戦略

- コア業務純益90億円、経常利益63億円、当期純利益32億円と増益見込み
- 下半期は有価証券のリスク資産を圧縮したうえで、通期業績予想（当期純利益）は据置き

(億円)

	23年3月 実績	24年3月 計画	前年比
1 コア業務粗利益	353	350	3
2 業務粗利益	375	337	38
3 資金利益	324	319	5
4 役務取引等利益	30	29	1
5 その他業務利益	20	11	31
6 うち国債等債券損益...	21	13	34
7 経費	273	260	13
8 人件費	140	135	5
9 物件費	119	113	6
10 コア業務純益	80	90	10
11 一般貸倒引当金繰入額...	2	-	2
12 業務純益	104	76	28
13 臨時損益	48	12	36
14 不良債権処理額...	51	4	55
15 一般貸倒引当金戻入益...	-	18	18
16 株式等関係損益...	10	25	35
17 経常利益	55	63	8
18 特別損益	4	5	1
19 当期純利益	25	32	7
20 有価証券関係損益(+)	31	38	69
21 与信費用(+ -)	49	22	71

資金利益 ▲5億円

- 貸出金・有価証券利回り低下

国債等債券損益 ▲34億円

- 現下の為替相場を鑑み、下半期にリスク資産の圧縮を計画
- 通貨ユーロとの相関が高く、評価損を抱える投信を解約

経費 ▲13億円

- システム共同化完了にともなう消耗品費、時間外勤務料などの減少
- コスト削減を継続

株式等関係損益 ▲35億円

- 現下の経済情勢、株式相場を鑑み、下半期にリスク資産の圧縮を計画
- 当面株価の回復が見込み難しく、配当利回りの低い株式を売却

与信費用 ▲71億円

- 取引先の業態に変化なし
ただし、経済情勢等から通期の与信費用を中間期と同水準に算定
- 通期の与信費用は大幅改善

- 総預金・総貸出金残高、Tier 比率は最終年度目標を上回る推移
- 目標達成・上積みに向けて取組みを強化


	24年3月期 当初計画	24年3月期 修正計画 (当初比)	23年9月期 実績	25年3月期 目標
1 総預金残高	2兆2,640億円	2兆3,145億円 (+505億円)	2兆3,535億円	2兆3,000億円台
2 うち個人預金残高	1兆5,808億円	1兆5,738億円 (-70億円)	1兆5,680億円	1兆6,000億円台
3 総貸出金残高	1兆3,788億円	1兆4,409億円 (+621億円)	1兆4,761億円	1兆4,000億円台
4 コア業務純益	100億円	90億円 (-10億円)	42億円	115億円以上
5 当期純利益	31億円	32億円 (+1億円)	27億円	40億円以上
6 ROE	2.44%	2.57% (+0.13pt)	4.44%	3.08%
7 Tier 比率	11%台	11%台 (-)	11.17%	11%台
8 OHR	72.09%	74.35% (+2.26pt)	75.76%	70%未満

ROE・・・当期純利益ベース
OHR・・・コア業粗ベース

- 農業・アグリビジネスによる地域振興に関する4者協定を締結
- それぞれの組織が有する情報、ノウハウ、ネットワークを融合する態勢を整備

態勢整備

23年7月
「農業・アグリビジネスによる地域振興に関する協定」締結



協定の趣旨

- 秋田ブランドの育成
秋田県内の一次産品・商材の育成、全国・海外への発信
- 事業化
儲かる(=継続性のある)仕組み作り
- 地域経済への波及効果
将来的な雇用拡大、観光振興などを展望

当行、秋田県等の
豊富な地域情報・
地域ネットワークの活用

野村グループの
アグリビジネスのノウハウ・
全国ネットワークの活用

成功事例の
積み重ね

- 事業コンサル
- 生産体制整備
- 対外PR
- 販路拡大
- 金融支援

- 秋田県内の一次産品・商材を洗い出し、第一弾の支援対象4者を選定
- 事業戦略立案、供給態勢整備、販路拡大など「ナショナルブランド化」を支援



三種町じゅんさい事業（じゅんさい）

- 風味・生育環境など秋田密着の差別化産品
- 町を挙げた取組姿勢
- 食品製造・観光業などへの波及効果



じゅんさい～寒天質に覆われた若芽が食材として珍重

農業法人(株)しらかみファームズ（にんにく）

- 複数の建設業者による新分野進出事業
- 青森県田子地区に代わる新たな産地形成
- 耕作放棄地の活用、雇用創出など地域経済への波及効果

三又旬菜グループ（いぶりがっこ）

- いぶりがっこ発祥の地、独自技術を確立
- 「金樽」ブランド力向上余地
- 集落経済を担う中心産業としての成長期待



NSバイオジャパン(株)（NS乳酸菌）

- 全国的にも珍しい植物性乳酸菌事業(3期目)
- 幅広い分野での応用・差別化が可能、市場創造期待
- 原材料～地場農作物、地域の農業生産額増加への貢献

(応用例) 食品～サプリメント(腸内環境改善)、食品防腐剤・甘味料等
 家畜～病原菌抑制(死亡率減少)、悪臭抑制、肉質向上等
 その他～ウィルス無害化、院内感染の抑制・予防等

- 増加する海外取引ニーズに対する実効ある支援を強化
- 当行貿易取扱高(前年同期比) 23年3月期 +58%、23年9月期 +5%と増加基調

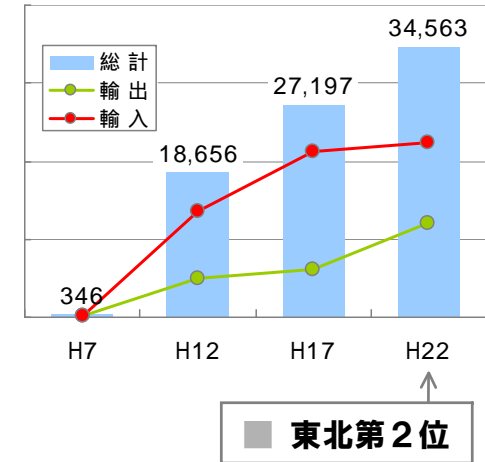


秋田港～日本海側拠点港 選定
 ■ 「国際海上コンテナ分野」拠点港
 ■ 中国・ロシア等、貿易の核として国が支援

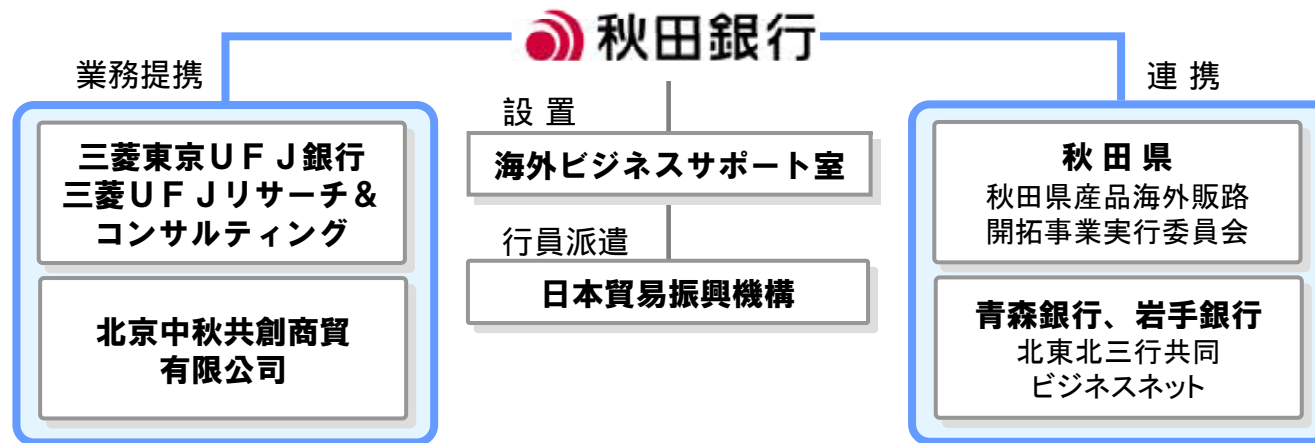
県内3港 貿易量急増
 ■ 輸入～金額+50%、コンテナ数+50%
 輸出～金額+18%、コンテナ数+27%

■ 秋田港 国際コンテナ取扱量

(単位：本) 20フィート換算



海外取引支援



● 香港フード・エキスポ2011

(23年8月:香港)

来場約40万人、出展18カ国888社

当行初の海外商談会として「秋田県/秋田銀行ブース」を出展、秋田県内企業7社が参加

商談件数	231件
開催1か月経過後 継続商談件数 (うち成約件数)	34件 (12件)



● FOODEX JAPAN2011

(23年3月:千葉)

来場約7万人、出展2,399社

「秋田県/秋田銀行ブース」を出展、秋田県内企業8社が参加

- マーケットに対応する店舗ネットワークの見直し、機能強化を促進
- 今後も県内を中心に統廃合・機能強化を予定

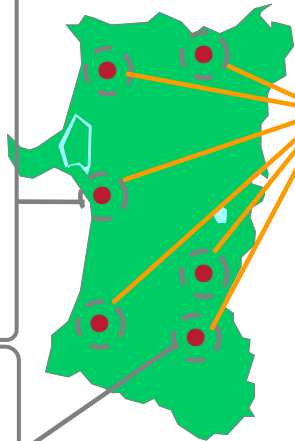
県内

<県央部（秋田市）の強化>

- 新屋支店（予定）
2か店統合・新築移転
営業時間延長
- 御野場支店、外旭川支店
営業時間延長

<ローコスト化>

- 土崎南支店
廃止



<個人ローンセンターの強化>

- 能代・本荘・横手
3拠点新設、県内全域をカバー
- リテールのワンストップチャネル化
保障性生活保険の販売開始（予定）

<県南部の強化>

- 横手条里支店
2か店統合・新築移転



県外



<ローコスト化>

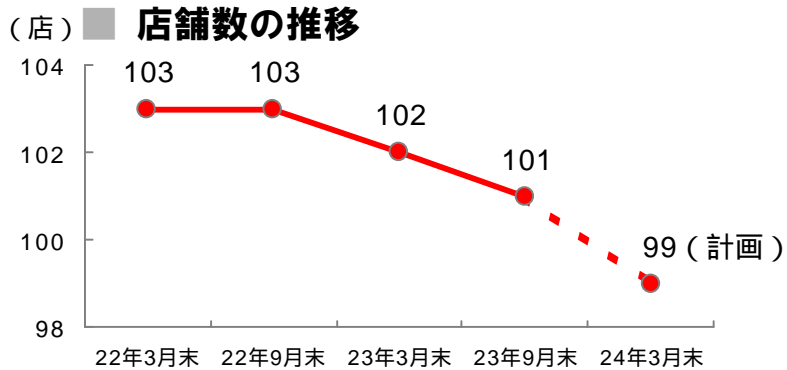
- 釧路支店
廃止

<郡山地区の強化>

- 郡山南支店
新築移転・支店昇格

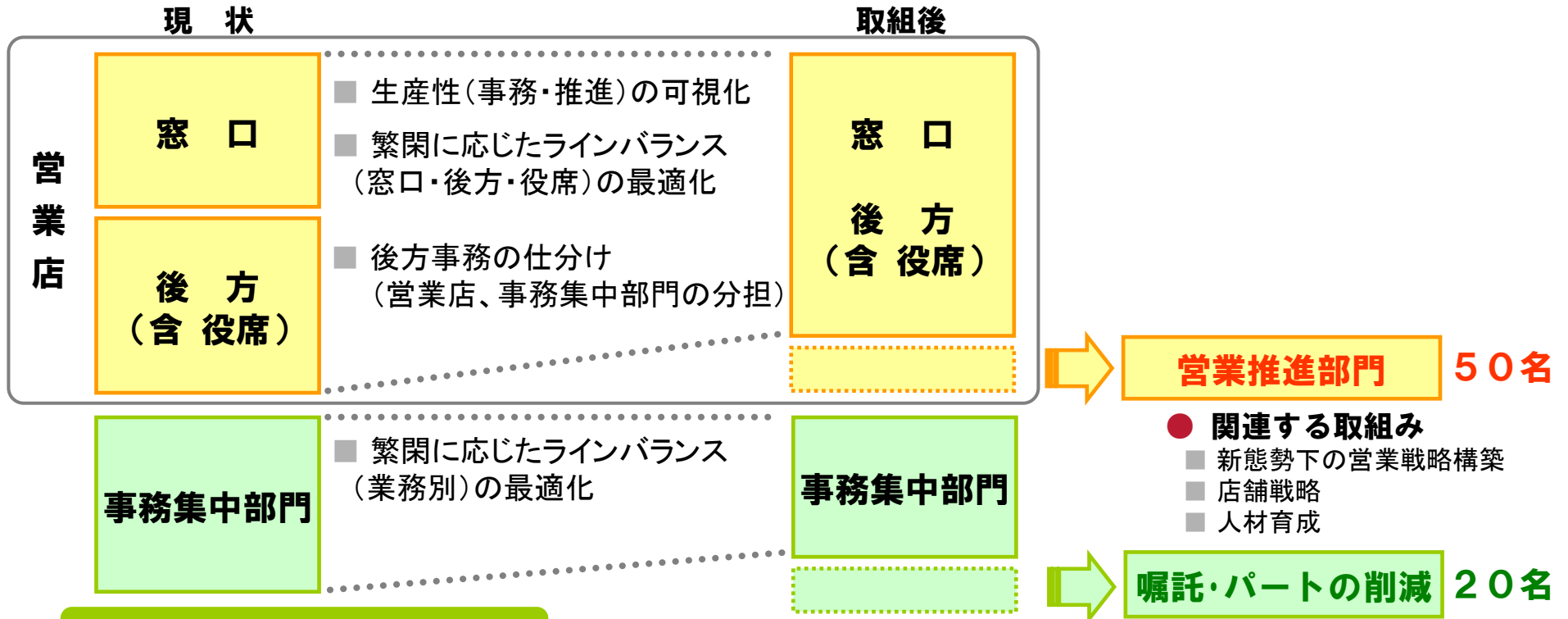
<仙台地区の強化>

- 仙台南支店
新築移転

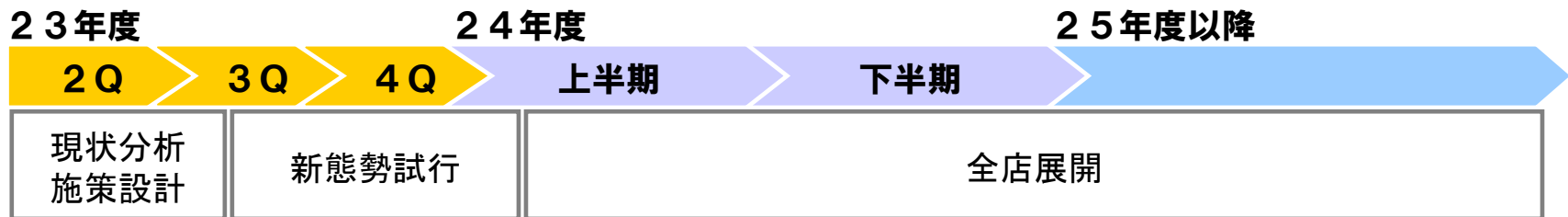



- 営業店業務改革推進プロジェクトチームを設置
- 業務生産性の向上に加え、新たな営業戦略の構築など関連する取組みを推進

営業店業務改革推進プロジェクト



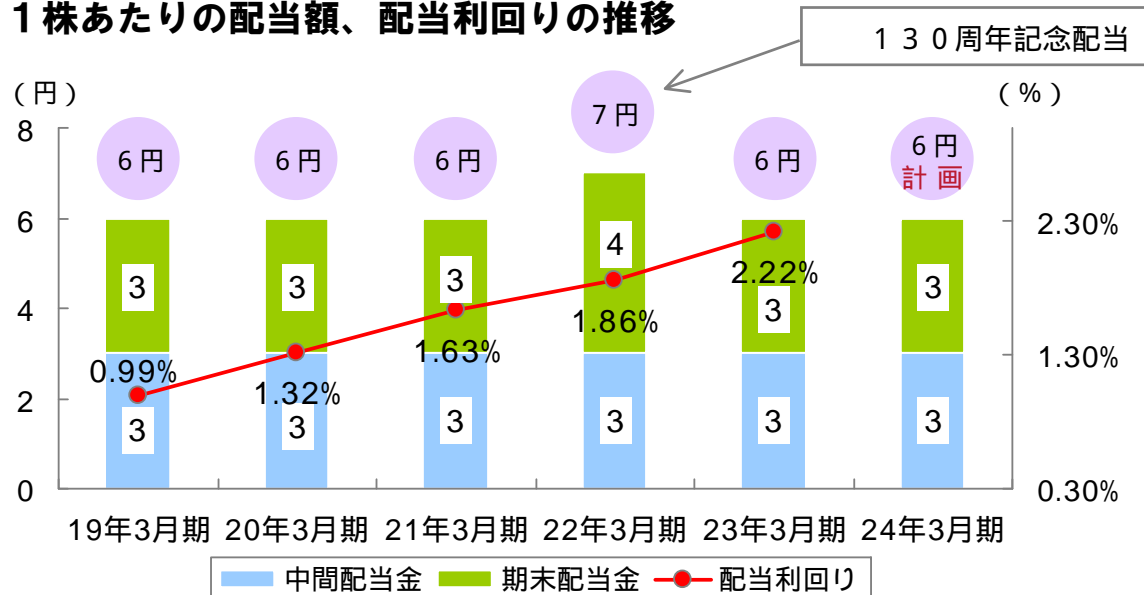
スケジュール



● **基本方針**

- **安定配当の維持**
- **自己株取得・消却を検討しながら、高い株主還元率の維持を目指す**

■ **1株あたりの配当額、配当利回りの推移**



■ **株主還元実績**

(百万円、%)

	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期
1 当期純利益(連結) A	4,952	3,514	2,102	3,513	2,652
2 年間配当額 B	1,172	1,160	1,159	1,352	1,159
3 配当性向 $B \div A$	23.6%	33.0%	-	38.4%	43.7%
4 自己株買付 C	-	1,120	-	-	-
5 株主還元率 $(B + C) \div A$	23.6%	64.8%	-	38.4%	43.7%

**本資料には、将来の業績にかかわる記述が含まれております。
こうした記述は、その内容を保証するものではなく、リスクや
不確実性を内包するものです。**

**将来の業績は、経営環境の変化等などにより現時点での計画と
異なる可能性があることにご留意ください。**



[本資料に関するご照会先]

株式会社秋田銀行 経営企画部 企画チーム

TEL:018-863-1212

<http://www.akita-bank.co.jp>